

いきもの ふれあいの森 通信

2025.1.25 創刊号



創刊にあたり

このほどアルプス公園北側の「学びと健康とスポーツのゾーン」に生息・生育する四季折々の動植物を紹介する『いきもの ふれあいの森通信』を配信することになりました。普段は気づかないアルプス公園の旬の自然の魅力を発信していきますのでご期待ください。



得意な「いなバウワー」のポーズ
ゴジュウカラ



かわいらしいエナガ

をなめる姿もあります。ゴジュウカラは独特のかぎ爪の脚を持ち、樹幹を上下に移動できる鳥で、下向きにした頭部を持ち上げる「いなバウワー」ポーズで人気があります。また、途中の水場には代わる代わるの小鳥たちが訪れ、水を飲んだり水浴びをしたりする様子が観察できます。先日はキバシリの水浴びやイカルの水飲みを観察することができました。この場所は人気のスポットで、絶えずカメラマンがいますので、初めての方は会話を交わしてみるとよいでしょう。

今年は冬鳥の少ないシーズンとなっています。それでも青い光沢の羽で知られるルリビタキやトラグミ、シロハラを見ることができました。

1月中旬の生きもの情報

●野鳥

北入口広場から古民家体験施設周辺は冬鳥観察のスポットとして知られ、カメラや双眼鏡を抱えた多くの野鳥愛好家が訪れます。特に12月～3月にかけては雑木林の木々が葉を落とし見通しが利くため、野鳥観察の適期なのです。1月に入ってよく目にする野鳥は、メジロ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、ヤマガラ、エナガなどの留鳥たちです。そろそろオニグルミが樹液をだすので、それ



←水を飲むイカル



水浴びをするキバシリ



一方、ツグミやアトリなどは、毎年多くの個体を見るのに、今年はほとんど見かけません。

古民家体験施設から「森の入口広場」の間も野鳥観察の適地です。1月から2月にかけてウルシやヌルデの実を求めて野鳥たちがやってきます。ブドウの房のように多くの実が垂れ下がるウルシの仲間は、野鳥たちが積雪によって地表で採餌できない時期の貴重な食糧となります。ここで野鳥を待てばいろいろな種に出会えるはずなのですが、どうしたことか今年は実の生りが極端に悪く、ホンウルシに至ってはほとんど実を付けていません。

昨年ですとアオゲラ、コゲラ、ルリビタキ、ヒヨドリなどが頻繁に訪れていました。ヌルデの実 は園内のあちこちで見かけますので、これからに期待したいと思います。



ホンウルシの実に飛びつくルリビタキ
(2024)

●昆虫

冬場は昆虫の越冬の様子を観察する楽しみがあります。アルプス公園内の園路には大きな花崗岩などの岩石を土留めに利用していますが、石の表

面についた地衣類に紛れているのがコマダラウスバカゲロウの幼虫です。アリジゴクで知られるウスバカゲロウの親戚ですが、すり鉢状の巣を作ることなく、岩の表面に大あごを開いたまま静止し、待ち伏せて通り過ぎる虫を狙います。冬場の捕食はないと思われませんが、風雪に耐え石の表面で越冬する姿を見ることができます。



コラム「怪鳥と呼ばれた鳥」

平家物語にも登場する妖怪に「鵺(ぬえ)」があります。頭がサル、手足がトラ、胴がタヌキで尾がヘビだと言い、口笛にも似たその寂しげな鳴き声は、夜の森に響き渡り気味悪がられました。今では、声の主はトラツグミと判明していますが、「鵺」はこの鳥の異称となったのです。そんな経緯からか全国的に凶鳥とされていたようで、松本地方でも「凶作鳥」と呼んでいました。

また、トラツグミには面白い習性があります。腰を左右に振りながら広げた尾羽を地表に打ち付ける動作を繰り返し、まるで踊っているかのよう。「トラダンス」とも呼ばれています。ダンスの合間に地中に嘴を刺し込み採餌を繰り返しますが、振動を与えて地表や地中に潜むミミズなどを察知しているらしいのです。(文責 那須野 雅好)



「トラダンス」を踊るトラツグミ(2021)